



〒270-1516

千葉県印旛郡栄町安食938-1

ふれあいプラザさかえ 1階

子育て包括支援センター 子育て相談員

URL <http://www.town.sakae.chiba.jp/>

Eメール kosodate@town.sakae.chiba.jp

～人とのおつきあい～

ここはある国の、とある病室の一室。多くの重傷患者がベッドをならべて横たわっている。窓はたった一つしかなく、分厚いカーテンによっていつも閉ざされている。患者たちは、ただ時間が過ぎるのをじっと待っている。唯一の楽しみは、病室の閉ざされた窓に一番近いヤコブが、体をやっとの思いでねじまげながらカーテンのほんのすきまに顔を突っ込んで、外の様子をみんなに話してくれることだった。「ほら、向こうの方からいつもの花売り娘がバラをいっぱい入れてやってくるよ。とても可愛い娘だよ」と教える。みんなも顔をほころばせながら、「バラの花は何色だい。きれいだろうね」と。「ほら、今日は雨が強いから大変だ。でも子どもたちが水たまりをピチャピチャやって遊んでいるよ。子どもは元気だなあ」「ちっちゃな長靴だから、水が中に入っちゃうのに、あとでお母さんにしかられなきゃいいが…」 (中略)

いつのまにか、私は、ヤコブに次いで2番目に古い患者になってしまった。重苦しさの中でヤコブの話だけはせめてもの希望であった。今日も朝から、ヤコブが機嫌よく面白おかしく話してくれた。私は何となくヤコブがにくらしくなってきた。寝たきりでみんな苦しんでいるのに、ヤコブだけがなぜ外の様子を見る権利が与えられているのか。ある時、特に重病だったニコルが一日だけその場所を譲ってほしいと申し出た。しかしヤコブはそれを無視した。翌朝、ニコルは冷たくなっていた。病室はいつになく重く沈んでいた。私だって外が見たい。そうだ、ヤコブが死ねばいい。ヤコブが死ねば、その次に古い私が、そのベッドに行けるのだ。その年の冬は例年になく寒かった。どうやらヤコブの様子がおかしい。みんなは、いつものように、外の様子を聞いたがった。しかしヤコブは話したがらなかった。その晩、ヤコブは苦しい息の下で、やっとの思いで身を乗り出し、しばらくだすように外の様子をみんなに伝えた。「明日はいい天気だ、星がいっぱいだ」そのまま、息が絶えた。みんな悲しみ、私も悲しいふりをしたが、どこかで笑っている自分がいた。私はカーテンの横に移動した。そしてカーテンの隙間をのぞきこんだ。そこから見える外の景色、これこそ求めていたもの。期待に胸が震えた。

……そこから見えたもの。カーテンの向こうはなんと冷たいレンガの壁であった。



長い文になってしまいましたが、上記は中学校などの道徳によく使われている「カーテンの向こう」の概要です。

この中の『ヤコブ』や『私』の心情に、正しい答えはありません。

正直さ・真実・思いやり・相手の立場に立つなど、

さまざまなことを考えさせられる文です。



みなさんも、家族、学生時代からの親友、新しくできたママ友、職場、などでいろいろな考えを持っている人たちの中で暮らしています。

人間関係をスムーズにするためには、

これもまた「これなら確実！」というものはありません。

ただ、忘れないでください。人間・友人関係で悩んでいることで、家族や子どもに当たってしまったり、子どもが大好きなママの笑顔が減ってしまうことのほうが深刻なんです。

